

登録コード	A4C44200	開講年度	2026			
授業科目	野生植物生態基礎演習				担当教員	荒瀬 輝夫 他
英文授業名	Practice for Wild Plants Taxonomy and Ecology					城田 徹央
単位数	1	講義期間	前期(後半)	曜日・時限	火曜・3時限 火曜・4時限 火曜・5時限	対象学生
講義室	第1実験実習室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	2025アカリ					
	【2025年度以降カリキュラム対象】2.【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身についている。				野生植物の分類・生態に関する広い知識・技術を身につける。	
	【2025年度以降カリキュラム対象】3.【情報分析・発信力】論理的な思考力のもと、多様な情報を収集・分析・活用できるとともに、効果的に伝えることができる。				野生植物の分類・生態の観点から、自然環境の情報を収集して分析的に整理・考察し発信するための基礎的素養を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生					
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース					
(4)授業の概要	基本的には毎回フィールドに出て採集や観察，さらには調査を行います。 植物は毎回の採集・種の同定・標本作成を行い，分類と標本作成方法を演習します。調査演習では，森林構造を把握する手法を演習し，レポートの作成を行います。 生育環境とセットで植物を覚えることが基本なので，標本採取とともに生育場の環境も観察し記録します。					
(5)授業計画	第1回：オリエンテーション，樹木・草本の分類と形態，標本作成法 第2回：検索図鑑演習（常緑針葉樹、常緑広葉樹） 第3回：草本植物の観察と採集 第4回：構内演習林の樹木1 第5回：構内演習林の樹木2、シダ植物の観察 第6回：構内演習林の樹木3、イネ科とスゲ類の観察 第7回：構内演習林の樹木4 第8回：期末試験 なお、授業の振り返りとして、最終回の授業の最後に授業アンケートを実施します。 また、天候等の都合で、場所や内容が変更になることもあります。					
(6)自主学習の指針	・第4回以降では、採集した樹木の種名を教員が教えるのではなく、各自、検索・同定をしてeALPSで解答を入力し、正否を確認する（誤答の場合には正答するまでやり直す）ことになります。これを行わないと、授業に出して植物採集をしても分類技能が身につかず、授業への取り組みも低評価になってしまいますので、ご注意ください。 ・分からない・できないところはそのままにせず、やり直す・教員に質問する・学生間で相談するなどして、理解と習得に努めること。 ・採集した植物種を正しく同定できたら、それだけに留まらず、同じ属の近縁種や形態的に似た類似種についても確認・比較し、理解を深めることを推奨します。					
(7)成績評価の基準	・期末評価において、全体的に充分習得していれば90点以上（卓越している）、全体的に概ね習得していれば80点以上（かなり上にある）、大部分習得していれば70点以上（やや上にある）、必要最低限の重要項目について習得していれば60点以上（水準に達している）とする。					
(8)事前事後学習の内容	・演習の予定（日付・テーマ・実習場所）は、初回に概説するだけでなく、予定表として掲示板に掲示します。 ・毎回の反復練習の積み重ねが習得のカギなので、採集標本の手入りを怠ることなく、教科書を携行して使い込むこと。採集標本の手入れや観察の時間も含め、配布資料や教科書その他をもとにした事後学習を、毎回2時間程度行ってください。 ・1回で採集・検索する植物種は限られるため、フィールドには採集しない植物種が多々あります。よって、移動中も復習・予習する絶好の機会なので、授業と無関係な私語は慎み、注意深く観察するように心がけてください。					
(9)テストやレポートの予定	・植物形態学用語の小テスト（第2回）。 指定の教科書から出題します（第1回の授業時に予告）。 ・期末試験（第8回） 同定能力の試験（樹木）、植物形態の観察力の記述試験（草本）。					
(10)成績評価の方法	期末評価では，毎回の取り組み状況：60％，期末試験成績：40％をもとに，植物形態学用語の小テストと中間評価の得点も参考にして，合計100点で総合評価します。 なお，周囲に迷惑を与えるような受講態度で，注意しても改善されない場合には減点対象になるので注意してください。					
(11)質問、相談への対応および連絡先	実物を見ながらのほうが理解しやすいので、授業中に直接質問するのがベストです。 授業時間外には、教員の研究室（3名ともB棟3F）を訪れるか、メールでお問い合わせください。 E-mail： 荒瀬：tearase(at)shinshu-u.ac.jp 城田：shirota(at)shinshu-u.ac.jp					

(12)履修上の注意	<令和7年度に履修を> 令和8年度からの新カリキュラムで、講義名はそのままですが内容が全8回・1単位に変わります（全15回・2単位の「野生植物生態基礎演習」は開講されなくなります）。 よって、令和8年度以降に履修しようとする、1単位分の内容が足りないことになるため、要相談（受講希望の事前申告と不足分の別途対応が必要）となります。 森林・環境共生学コースの学生（必修）は、令和7年度に取りこぼしのないよう、重々ご注意ください。 森林以外のコースの学生（選択科目）の場合も、できるだけ令和7年度のうちに受講してください。 令和8年度からの新カリキュラムで、内容が全7回（1単位）に変わります。前年度までの全15回（2単位）の「野生植物生態基礎演習」は開講されません。 このような事情から、昨年度のシラバスの「履修上の注意」に、 「森林・環境共生学コースの学生（必修）は、令和7年度に取りこぼしのないよう、重々ご注意ください。 森林以外のコースの学生（選択科目）の場合も、できるだけ令和7年度のうちに受講してください。この科目の単位が必要な場合、できるだけ令和7年度のうちに受講してください」という内容が明記されていました。 旧カリキュラム学生が本講義の単位を取得するには、通常授業（8回）に加えて、不足する1単位分の別途対応が必要になります。 よって、旧カリキュラム学生が受講を希望する場合、必ず、担当教員（荒瀬）まで受講希望を申し出てください。事情を確認のうえ、対応を検討して指示します。 <授業中の注意事項> ・初回到植物分類学や形態学の必要事項、必要な物品と装備、諸注意について説明するので、必ず出席してください。 ・演習開始時刻に遅れることのないよう、早めの行動に努めること。 ・グループでの演習のときは、単独行動や他人任せはせず、メンバーと協力して取り組むこと。 ・トイレ・水道のない場所での演習が多いので、体調万全で臨むこと。 ・小雨程度なら野外演習を予定通り行います。授業開始時に晴天でも、途中から雨になることもあります。雨具の貸し出しは行いません。野外演習の前には天気予報を確認し、晴天でも雨具を携行する習慣を身につけてください。
【教科書】	・「葉でわかる樹木」馬場多久男 信濃毎日新聞社 ・「花と葉で見わかる野草」近田文弘監修 小学館
【参考書】	・「冬芽でわかる落葉樹」馬場多久男 信濃毎日新聞社 ・「花実でわかる樹木」馬場多久男 信濃毎日新聞社 ・「樹に咲く花（全3巻）」石井英美他 山と溪谷社 ・「写真で見る植物用語」岩瀬徹・大野啓一 全国農村教育協会 ・「牧野日本植物図鑑（学生版）」牧野富太郎 北隆館 ・「森林立地調査法」森林立地調査法編集委員会編 博友社 また、植物さく葉標本も本学に所蔵・整理されていますので、希望すれば閲覧することができます。